

## プロフィール



名前	久留主 志朗
所属部署	北里大学 獣医生理学研究室
職種	教授
この研究室に入った日	1989（平成元）年4月
出身地	鹿児島
趣味	軽い読書、ネットでのラジオ聴取、偶のジョギング

## インタビュー

Q1 現在の研究室の仕事内容を教えてください。

雌性生殖全般にわたって起こる様々な現象の基本メカニズムを、ラットやマウスを用いて調べています。私（久留主）は、特に妊娠の維持と終結（分娩発来）機構について、助教の寺島先生はGnRHのシグナリング機構を中枢（下垂体）と末梢組織（乳腺、他）の両方で研究しています。

私自身の研究テーマは30年前に「黄体におけるプロゲステロンとPGF2aの合成・作用」というもので始まりました。これら“古典的”生理活性脂質から、さらに多種類の脂質代謝物に、特に炎症や癌などでの病態生理的活性が見いだされるようになりました。様々な生物過程を含んでいる生殖においてもほとんど必ずと言っていいくらいに、それらの合成や作用を示唆する証拠が得られてきています。自分も少しでもそこに貢献できればと微力ながら頑張っています。

妊娠維持や分娩開始、それに加え胎盤や胎子の発達に関する普遍性の高い共通メカニズムを求めて物理的・倫理的・経済的制約が少ない小型げっ歯類を選んで調べているわけですが、調べれば調べるほど生殖には動物種差が多様であることが再認識され、産業動物やヒトへのトランスレーションを意識しつつも、その大きい隔たりにあがいている状況です。

## Q2 研究室の仕事の進め方は？

獣医学科の学部4年次後半からの入室生が研究活動の主体となりますが、臨床実習プログラムや国家試験のこともあり、卒業研究活動は実質1年間です。技術や興味のレベルが上がったところで卒業ということで、連続性のある効率よい運営はなかなか難しいといった現状です。活発な大学院生を切望しているところです。

## Q3 若手研究者へのメッセージ

自然科学とその応用技術の目覚ましい進展や我々を取り巻く社会・生活スタイルの急速な変化によって、誰も20、30年後の世の中を正確に予測できません。しかしながら、科学技術が発展し続けること、そして本学会が扱う生命（いのち）の誕生というテーマの追究は未来永劫的であることは誰にも疑いのないことですので、そこのところに少しでも多くの若い方々が携わり、またその発展に貢献されることを願います。